

水道工事図面作成要領

令和 6 年 6 月

倉 敷 市 水 道 局

(5) 総括表

ア 口径ごとに、工種・管種・数量等を記入する。（図 8－5 参照）

イ しゅん工図が 2 枚以上になる場合でも、全内容を 1 枚目に一括して表示する。

ウ 表示内容

(ア) 布設工

a 管種は略称を記入し、正式名称を別欄に記入する。

b 数量は管路延長を m で表し、小数第 2 位まで記載する。

c 複数の路線がある場合は、備考に内訳を記入する。また、水管橋又は橋梁添架管（以下、「水管橋等」という）を含む場合は、その旨を記入すること。（図 8－5 参照）

(イ) 仕切弁

a 管種・形状にはソフトシール・青銅仕切弁等の種別を記入する。

b 備考に該当ルートを記入する。

(ウ) 消火栓

a 管種・形状には地下式単口（副弁付）等の種別を記入する。また、うず巻き式フランジ T 字管を使用している場合は、その旨を記入すること。

b 備考に該当ルートを記入する。

(エ) 空気弁

a 管種・形状には急速空気弁等の種別を記入する。

b 備考に該当ルートを記入する。

(オ) 埋没及び撤去工

a 埋没管数量は新設管路の全線に既設管がある場合は、布設延長の数量に合わせる。

(カ) その他担当者が指示するもの

総括表

口 径	工 種	口径・寸 法	管 種・形 状	数 量	備 考
φ 1 0 0	布設工	φ 1 0 0	G X D I P (P E)	356. 20m	A ルート 246. 20m (露出部有り) B ルート 110. 00m
	仕切弁	φ 1 0 0	ソフソール仕切弁	2 基	A・B ルート
	消火栓	φ 7 5	地 下 式 単 口 (うず巻き式)	1 基	B ルート
	埋没管	φ 1 0 0	V P	200. 00m	
	埋没管	φ 7 5	V P	156. 20m	
φ 7 5	布設工	φ 7 5	H P P E	76. 10m	C ルート
	仕切弁	φ 7 5	ソフソール仕切弁	1 基	C ルート
	埋没管	φ 5 0	V P	76. 10m	
G X D I P (P E) ・ ・ 水道用ダクタイル鋳鉄管 (G X 形) 内面粉体塗装 1 ・ S 種管 H P P E ・ ・ ・ ・ ・ 水道配水用ポリエチレン管					

図 8 - 5 総括表記入例

(6) 位置図

ア 位置図は、平面図の右上角に配置し、工事場所がわかるように記入する。

イ 位置図の輪郭の大きさは、B 5 判 (18. 2 cm × 25. 7 cm) 以上とする。

(7) 平面図

ア 水道施設の記号は、別紙「水道施設記号集」を使用する。

イ 新設配管は、実線で表示し、弁栓類・異形管（曲がり）等の位置は、各オフセット
測定のデータを基に記入する。

ウ 別添に詳細図を記載する場合は、平面図の該当箇所を○で囲み、符号を付けて区分する。また、平面図の該当箇所はルート上の若い方の起点側から「ア、イ、ウ・・・」のように符号を付けること（図8-6参照）。

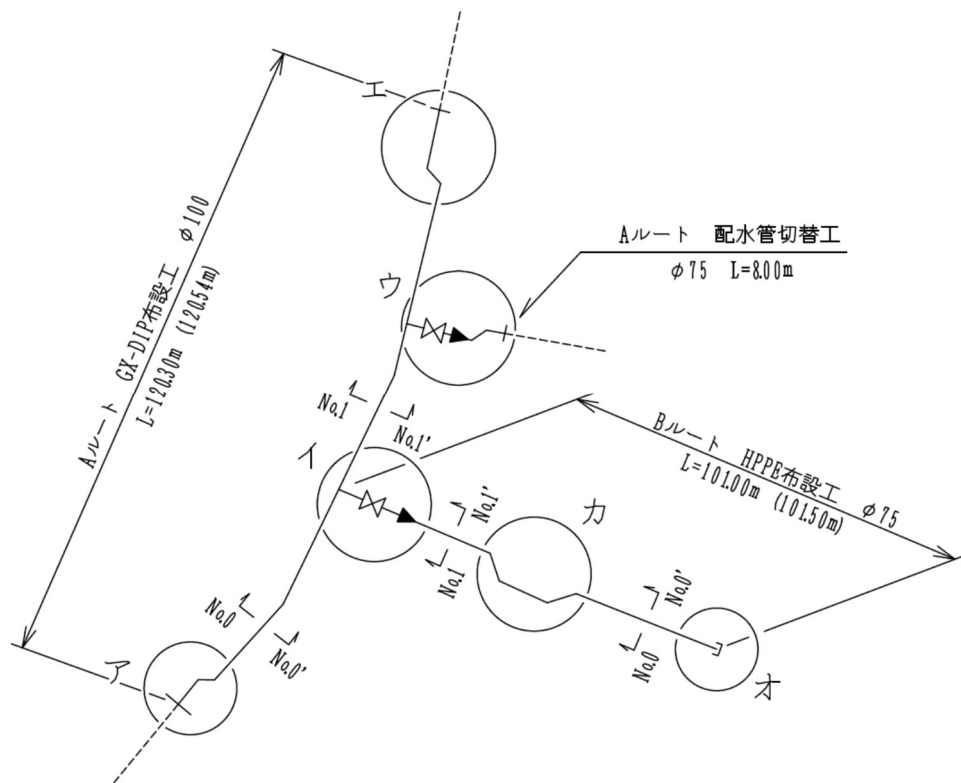


図8-6 詳細図符号記入例

エ 新設配管は、路線名・管種（布設工のみ）・工種・口径・延長（平面・管路）・土被り・入替種別・道路形態等を記入する。

（例）Aルート GX形DIP（PE）布設工 φ100 L=320.30m（320.54m）

うち露出部 L=10.55m（11.15m）（水管橋等を含む場合）

土被り0.6m 土砂全面入替 アスファルト舗装道 設計水圧〇〇MPa（0.75MPaを超える場合）

オ 水管橋等を含む場合は、その露出部管路を上記エの例のように記載する。なお、延長（平面・管路）は実測値とする。

カ 設計水圧が0.75MPaを超える場合は、設計水圧を上記エの例のように記載する。

キ 既設管は、破線（細線）で表示し、管種・口径・土被りを記入する。また埋設管については、管種・口径を記入し、その上を斜線で消込みを行う。（図8-7参照）

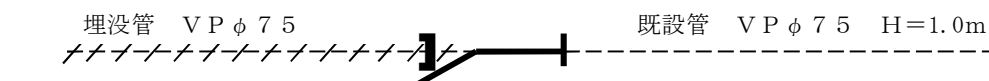


図 8 - 7 既設管・埋設管表示例

ク 仕切弁、青銅仕切弁、消火栓及び空気弁には監督員より通知のあった管理番号を記入する。（配水管に設置するものについてのみ。給水管に設置するものには記載しなくてよい。また、詳細図等には記載しなくてよい）。字の大きさについては4mm以上のサイズとし、交差点等で設置基数が多くなる場合は引き出し線等を使用して表示すること。

（図 8 - 8 参照）

ケ 締切仕切弁（排水管に設置するものは除く）は黒塗りで図示すること。（図 8 - 8 参照）

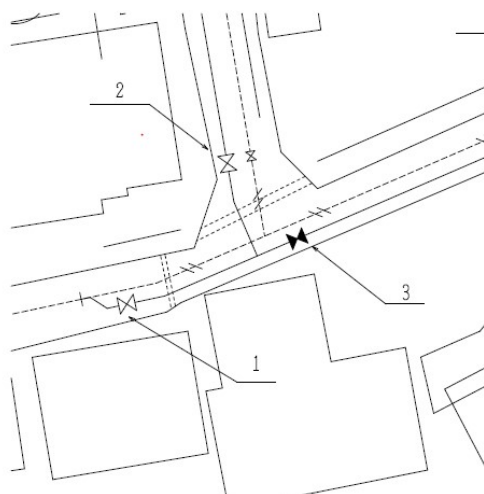
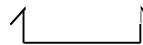


図 8 - 8 仕切弁表示例

コ 測点及び横断面図の位置を記入し、測点番号は「0」から始まり「No. ○○」と表示し、横断面の位置については、矢視（) で表す。また、横断面の位置については、設計図面・工事写真の横断面位置と同位置にする。（ただし、現場状況により管布設位置等が変化する場合は、監督員の指示により変更する。）

(8) 横断面図

ア 測点ごとに横断面図を書き、断面の測定（切り方）方法は、図 8 - 9 のとおりとする。ただし、同一路線の場合において、断面の切り方は同一方向とする。